

《ミャンマー》大同団結図る少数民族武装勢力 「ライザ会議」参加の18組織：プロフィール(下)

「全国的停戦協定(NCA)」に関する最新情勢

テイン・セイン政権の「中央和平構築実務委員会」(首席代表＝アウン・ミン大統領府相兼同副委員長)と、18の少数民族武装組織を代表する「全国停戦調整チーム(NCCT)」との第2回会合は12月中に東部・カレン州の州都パアンで開かれる予定だった。しかし、少数民族側が同会合に先んじて各組織相互の間で和平交渉に関する方針や政策を改めてすり合わせるための会議を開くことから、同会合は来年にまで延期される公算が高くなった。

パアンの会合では、北部・カチン州の州都ミッチーナで11月4～5日に開かれた、(政府と少数民族勢力との)「全国的停戦協定(NCA)」調印に向けた和平交渉(「ミッチーナ会合」)が実質的に「物別れ」に終わったことを受けた、「仕切り直し」の協議が行われることになっている。

一方、少数民族勢力の“内輪”の会議のほうは、12月20日にカレン州内の「カレン民族同盟(KNU)」支配地で開かれる予定(12月2日時点)で、10月30日～11月2日にカチン州ライザで開かれた「全国少数民族武装組織会議」(通称「ライザ会議」)で決定された、NCA調印の是非に関する少数民族側の統一方針を再調整するための話し合いが行われる。



「ミッチーナ会合」の出席者(ミャンマー政府代表団、少数民族諸組織代表、UN関係者など)(写真:UNFC広報部提供)

〔組織データ・ファイル〕

〔凡例〕

*少数民族各組織は組織や指導部が歴史的に様々な変遷(解散や再組織化など)をたどっており、【創設】は基本的に母体組織の結成時を示す。

*【兵力】は政府系・反政府系の機関・NGOによるデータや海外のミャンマー問題研究機関の報告などを参考に筆者が推計した。

*【活動地域】は、当該組織の完全支配地域だけでなく、国軍部隊との「競合地域」や政治的な影響力が及ぶ地域を含む。

*【指導部】氏名の後に☆印が付いた幹部は、「ライザ会合」で合意文書に組織を代表して署名したことを示す。

*【旧停戦】は旧・軍事政権との停戦を示し、(無し)は軍事政権時代を通じて「非和平(非停戦)組織」だったことを意味する。【新停戦】はテイン・セイン現政権との停戦を示し、(未調印)は(本データ作成時点で)未だ停戦協定に調印していないことを意味する。「第2段階」は停戦合意後に連邦レベルでの政治的交渉に入ったことを示す。

■アラカン民族評議会 Arakan National Council(ANC)

武装組織の「アラカン民族統一党(NUPA)」に「在外アラカン民主連盟(ALD Exile)」、「全アラカン学生青年会議(AASUC)」、「ラカイン・サンガ(仏教僧団)同盟(RSU)」などの政治組織、それに米国、欧州諸国、日本など各国の在外諸団体を糾合したアラカン族系の包括的政治組織(umbrella organization)。母体組織は、2004年に開催された第1回「在外アラカン族会議」の直前にインドのニューデリーで創設された。11の少数民族武装組織で構成される「統一民族連邦評議会(UNFC)」の加盟組織。UNFCでは、NUPAが実質的に(ANCの)権限を代行する組織となっている。

▼データ：【民族】アラカン(ラカイン)族【創設】2004年【軍事組織】NUPAのみが武装組織【兵力】最大100人(04年にバングラデシュ政府により一旦武装解除)【活動地域】ラカイン州シットウエ、ミャンマー-バングラデシュ国境地域、ミャンマー-タイ国境地域【指導部】議長：ティ・ハ師(U Thi Ha)/副議長：キン・マウン博士(Dr Khin Maung)/書記長：トワン・ゾー(U Twan Zaw)☆【本部】(暫定)タイ領ターク県メーソット【旧停戦】(無し)【新停戦】(未調印)

■アラカン解放党 Arakan Liberation Party(ALP)

軍政時代の「非和平(非停戦)組織」のひとつ。ネ・ウィン政権時代からミャンマー・タイ国境のKNU支配地を拠点に活動。(上述の)ANC創設時にはその加盟組織だったが、現在は離脱し独立した組織として活動している。

▼データ：【民族】アラカン(ラカイン)族【政府側呼称】ラカイン州解放党(RSLP)【創設】1968年11月20日【軍事組織】アラカン解放軍(ALA)【兵力】最大100人【活動地域】カレン州、ラカイン州北西部【指導部】議長：カイン・レイ・カイン(Khaing Ray Khaing)/副議長：カイン・ソー・ナイン・アウン(Khaing Soe Naing Aung)/書記長：カイン・トゥー・カ(Khaing Thu Kha、またはKhine Thu Kha)☆【本部】カレン州内(移動)【旧停戦】(無し)【新停戦】2012年4月5日

■アラカン軍 Arakan Army(AA)



トワン・ムラット・ナイン司令官

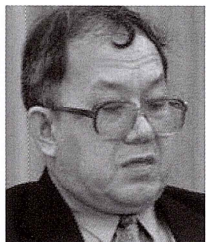
「カチン独立機構(KIO)」の支援を受けて、2008年にカチン州のKIO支配地域内で創設されたアラカン族の武装組織。武装要員の大半がKIOの軍事組織「カチン独立軍(KIA)」から訓練を受けている。活動地域はKIOと同じで、2011年6月に始まり現在まで続くKIAと国軍部隊との戦闘では、KIAの「友軍」として行動している。ラカイン(アラカン)州内での軍事的な活動実態はない。(上述の)ANCとは密接な連携関係にある。

▼データ：【民族】アラカン(ラカイン)族【創設】2008年【兵

力】500人【活動地域】カチン州(KIO支配地域)【指導部】司令官：トゥン・ムラット・ナイン(U Tun Mrat Naing)☆/副司令官：ニョー・トゥン・アウン(Dr. Nyo Tun Awng)【本部】(暫定)カチン州(KIO支配地域内)【旧停戦】(無し)【新停戦】(未調印)

■パオー民族解放機構 Pa-oh National Liberation Organization(PNLO)

母体組織(「パオー同盟」)はビルマ(現ミャンマー)独立直後の1949年に創設。幹部の政府への帰順と組織再編、異なった名称の複数組織への分裂などを繰り返したが、2009年に5つのパオー族系武装組織・政治組織などが統合され新組織として再出発した。UNFC加盟組織であり、クン・オッカー議長はその第2副書記長を務めている。



▼データ：【民族】パオー族【創設】1949年(母体組織)、2009年(現組織)【兵力】最大200人【活動地域】シャン州ホーポン(Ho Pong)、シーサイン(Hse Hseng)、モークマイ(Mawk Mai)各地区【指導部】議長：クン・オッカー大佐(Col Hkun Okker)/副議長：クン・ティ・ソン准将(Brig. Khun Ti Song)/書記長(PNLO和平交渉団長)：クン・ミン・トゥン(Khun Myint Tun)☆/司令官：クン・トゥレン大佐(Col Khun Thurein)

【本部】シャン州南部・ホーモン(Homong)【旧停戦】1991年4月(旧・構成組織の一部)【新停戦】2012年8月25日

■ラフー民主同盟 Lahu Democratic Union(LDU)

ラフー族を代表してUNFCに加盟。

▼データ：【民族】ラフー族【兵力】最大100人【活動地域】シャン州モントン(Mong Tong)【指導部】議長：チャ・クン・サー(Kya Khun Sa)☆【旧停戦】(無し)【新停戦】(無し)

■ワ民族機構 Wa National Organization(WNO)

母体組織は1974年、政府系民兵組織(「カクイエ」)を離脱した、シャン州ウィエンガーン(Vieng-ngern)藩王(ソープワ)の血筋を引く故マハサン大佐(Col Ta Maha San)が旧「シャン州軍(SSA)」の支援を受けて創設。「ビルマ共産党(CPB)」の支配に入った同州のワ高原から南下し、タイとの国境地帯で82年に新生WNOを結成した。東西冷戦時代は、カレン民族同盟(KNU)が盟主だった、反共の少数民族組織の連合体「民族民主戦線(NDF)」の加盟組織として活動した。

▼データ：【民族】ワ族【創設】1982年【武装組織】ワ民族軍(WNA)【指導部】議長：ター・パー・ルウェー大佐(Col. Ta Pa Lweh)/副議長：ター・マハ大佐(Col. Ta Maha)☆/書記長：アイク・ニュン少佐(Maj Aik Nyunt)【本部】ミャンマー-タイ国境

■ミャンマー民族民主同盟軍 Myanmar National Democratic Alliance Army(MNDAA)

「コーカン族」の武装組織・通称「コーカン軍」で知られる同名組織(MNDAA)の主流派が2009年に国軍の要求に応じて「国境警備隊(BGF)」に再編された際に、それに反発して離脱し

た反主流派の組織。「コーカン族」は厳密には少数民族ではなく、シャン州に移住した中国人の子孫(華人)である。コーカン地方はケシの栽培とヘロイン精製、および覚醒剤の製造地域として知られる。

▼データ：【民族】コーカン族(果敢族：華人)【創設】(母体組織)1989年3月【兵力】最大300人【活動地域】コーカン地方(シャン州〔北部〕第1特別区)の中国との国境地帯【指導部】参謀長：ポン・ターシュウィン(Phong Ta Shwin)、またはポン・チャーシン(Phone Kyar Shin)☆【旧停戦】(母体組織)1989年3月21日【新停戦】(未調印)

《少数民族諸組織の連合体》

■統一民族連邦評議会 United Nationalities Federal Council(UNFC)

2011年2月にミャンマー・タイ国境地帯で開かれた少数民族諸組織の合同会議において、「各民族の平等性と自決への権利を獲得し、真の連邦制国家の創成を目指す」ことなどを目標に結成された、少数民族武装諸組織の「連合体」である。しかし、現実には加盟各組織間の連絡・調整を図る政治組織の意味合いが濃い。

当初は、ミャンマー政府との政治的交渉における少数民族勢力全体の統括組織として機能することを目的にしたが、現状はそうした権限はなく、政府機関と連携して各少数民族の居住地で国際機関や各国の非政府組織(NGO)などが救援活動や社会開発事業を行う際の少数民族側の受け皿としての意味合いが強くなっている。

「ライザ会議」や「ミッチーナ会合」では、個々の少数民族組織と並んで合意文書に対する調印組織(signatory)となっている。執行部は、政府との「全国的停戦協定(NCA)」の調印に対しては慎重姿勢を崩さないできた。

現在の加盟組織は、①カレン民族同盟(KNU)②新モン州党(MNSP)③カレンニ民族進歩党(KNPP)④カチン独立機構(KIO)⑤シャン州進歩党(SSPP)⑥チン民族戦線(CNF)⑦パラウン州解放戦線(PSLF)⑧ラフー民主連盟(LDU)⑨アラカン民族評議会(ANC)⑩パオー民族解放機構(PNLO)⑪ワ民族機構(WNO)。



N・バン・ラUNFC議長

▼データ：【民族】主要な少数民族を網羅【創設】2011年2月【武装組織】創設当初は「連邦軍(Union Army)」設置の構想があったが、実際には直属の武装部隊は無い【指導部】議長：N・バン・ラ中將(KIO：Lt. Gen. N' Ban La)☆/第1副議長：アーベル・トゥイード(KNPP：Khun Abel Tweed)/第2副議長：ソー・デービッド・タカポー(KNU：Saw David Thakapaw)/書記長兼スポークスマン：ナイ・ホンサ(NMSP：Nai Hongsa)、別名ナイ・ハンタ(Nai Hantha)/第1副書記長：パドー・マン・マン(KNU：Pa Doh Mahn Mahn)/第2書記長：クン・オッカー大佐(PNLO：Col Hkun Okker)【本部】活動の拠点はタイ北部・チェンマイ

【本部】活動の拠点はタイ北部・チェンマイ

(アジア・リンケージ 勝田 悟)